

## 外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/11/02

### 金融市場全体のリスクオン・オフを確認

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	RBAの決定と声明に注意 予想レンジ: 80.000 ~ 89.000 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	12月のRBNZ利下げ観測は強まるか 予想レンジ: 77.000 ~ 85.000 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	基本的には株・商品次第 予想レンジ: 8.200 ~ 9.100 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

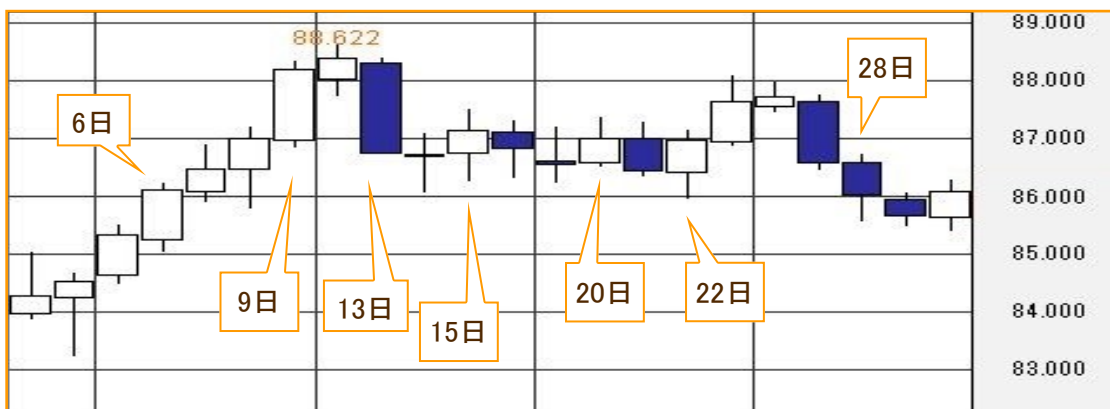
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 10月の推移

AUD/JPY

10月の豪ドル/円相場は83.273~88.622円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

序盤は堅調な主要国株価や、豪中銀(RBA)が近い将来の利下げへの目新しい示唆をしなかった事などを背景に88.622円まで一時上昇した。しかし、中国の貿易収支における予想以上の輸入減が豪州にとってマイナスと受け止められた事などによって豪ドル/円は軟化。日銀の追加緩和期待が熾ぶる中で86円ちょうど前後では一旦底堅さを見せたものの、豪州の民間銀行の住宅ローン金利引き上げや、豪7-9月期消費者物価指数の下振れなどからRBAの利下げ期待が強まった事を受けた豪ドル売りなどによって上げ幅を縮小した。



## 四本値

OPEN	83.987
HIGH	88.622
LOW	83.273
CLOSE	86.102

6日	豪8月貿易収支が30.95億豪ドルの赤字と、赤字額が市場予想(24.00億豪ドルの赤字)以上だった事から、豪ドルは売りで反応。ただし、RBAの声明発表を控えてすぐに下げ幅を圧縮。その後、RBAは大方の予想通り政策金利の据え置きを発表し、声明にて「豪ドルは商品安に適應している」「金融政策は緩和的である必要」「経済にはしばらくたるみがある見通し」「経済は長期平均を下回るペースで拡大」との見方を示した。一部に利下げ期待があった上、声明文に目先の利下げを示唆する目新しい文言がなかった事から、豪ドルは上昇した。さらに、NY原油が上昇した事も追い風となった。
9日	前日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録を受けて年内利上げ期待が後退する中で主要国株価が上昇すると、豪ドル/円も堅調な推移となった。
13日	中国9月貿易収支が3762億元の黒字と市場予想(2924.2億元の黒字)以上の結果だったが、輸入が前年比-17.7%(予想:-16.5%)、輸出が-1.1%(同:-7.4%)と、輸入が市場予想よりも大きく減少した点を受けて豪ドル/円は下落。さらに、国際エネルギー機関(IEA)が10月月報で「世界の石油市場の供給過剰状態は2016年まで続く」との見通しを示し、NY原油が失速すると、豪ドル/円はさらに下値を切り下げた。
15日	豪9月雇用統計は失業率が市場予想通りの6.2%となるも、新規雇用者数が0.51万人減と予想(0.96万人増)に反して減少し、労働参加率も64.9%と予想(65.0%)を下回った。これを受けて豪ドル/円は発表直後は下落。ただ、日経平均が堅調な中ですぐに反発した。
20日	RBAの理事会議事録において「雇用市場は前回の予想時よりも底堅くなった」「7-9月期の経済成長は4-6月期よりも強まった」などと伝えられると、豪ドルは上昇。さらに、相場が薄い中でロンドン8時(日本時間16時)のフィキシングに向けてまとまった規模の円売りが入った事も豪ドル/円の追い風となった。
22日	豪コモンウェルス銀行が住宅ローン基準金利の引き上げを発表した。市場では住宅市場の過熱感が沈静化すればRBAが利下げしやすくなるのでは、との見方から豪ドル売りで反応した。しかし、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁の会見で12月の追加緩和観測が強まり、ユーロ/豪ドルが急落すると、豪ドル/円は反発した。
28日	豪7-9月期消費者物価指数が前期比+0.5%(予想:+0.7%)、前年比+1.5%(同:+1.7%)、基調インフレが前年比+2.15%(同:2.45%)と予想を大きく下回った事を受けて利下げ観測が強まると、豪ドル/円は失速した。

AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	17479.97
HIGH	19202.34
LOW	17389.57
CLOSE	19083.10

## NYダウ平均

OPEN	16278.62
HIGH	17799.96
LOW	16013.66
CLOSE	17663.54

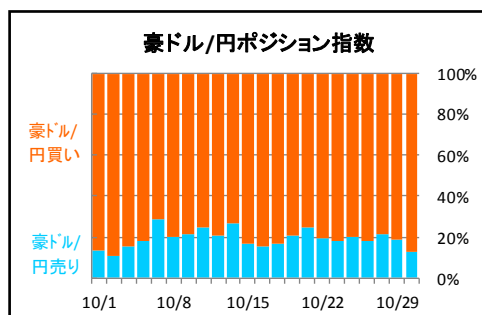
## 上海総合指数

OPEN	3156.074
HIGH	3457.517
LOW	3133.127
CLOSE	3382.561

## 豪10年債利回

OPEN	2.592%
HIGH	2.719%
LOW	2.529%
CLOSE	2.611%

## 10月のポジション動向



## 11月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国10月財新製造業PMI(2日)
- ・RBAキャッシュターゲット(3日)
- ・豪9月貿易収支(4日)
- ・豪9月小売売上高(4日)
- ・RBA四半期金融安定報告(6日)
- ・米9月雇用統計(6日)
- ・中国10月貿易収支(8日)
- ・中国10月小売売上高(11日)
- ・中国10月鉱工業生産(11日)
- ・豪10月雇用統計(12日)
- ・日7-9月期GDP・一次速報(16日)
- ・RBA議事録(17日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・主要国株価、国際商品価格

## 11月の見通し

10月の豪ドル/円は上旬は上昇するも、88円台では上値が重い状態。RBAの利下げ観測が強まると軟化した。

11月の豪州はまず、3日の理事会で利下げがあるかどうか焦点になる。月初の時点でのエコノミスト予想では金利据え置き派が過半数を超えているが、利下げ予想派もかなり多い。いずれの結果になっても豪ドル相場は乱高下しそうだ。また、声明文も注目される。利下げの場合は金融政策を当面は据え置いて利下げの効果を確認する、というスタンスが示されれば、利下げ発表直後の豪ドルは下げても、次第に大きく切り返す可能性がある。一方、金利据え置きとなっても、近い将来の利下げについて踏み込んだ示唆があれば豪ドルは一時上昇する事があっても結局は売り優勢になると予想される。

一方、日銀に関しては、11月18-19日に金融政策決定会合が行われる予定だが、10月30日の黒田日銀総裁の会見でなんら目新しい示唆がなかった事から、ここで質的量的緩和拡大が決定される可能性は高くない。黒田日銀総裁の会見には注意が必要だが、よほど12月の追加緩和を意識させるような発言がなければ、無風通過となりそうだ。

もちろん、引き続き日々の主要国株価や原油価格の動向、中国の指標結果なども注目される。(石川)

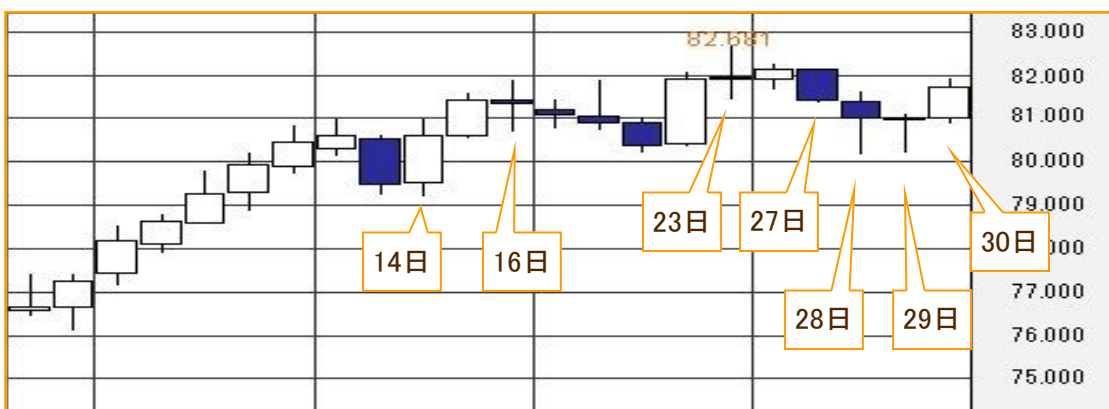
(予想レンジ: 80.000~89.000円)

## NZドル/円 10月の推移

NZD/JPY

10月のNZドル/円相場は76.160～82.681円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.6%の大幅高(NZドル高・円安)となった。

月前半は主要国株価の上昇などを追い風にジリジリと上昇。さらにNZの乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が2カ月半ぶりに前回比で上昇した事(15日)やNZの消費者物価指数の市場予想上振れなどを受けたNZ中銀(RBNZ)の政策金利据え置き観測(一時は利下げ予想が大勢だった)などもあって堅調に推移した。ただし、82円台では伸び悩んだ。



## 四本値

OPEN	76.606
HIGH	82.681
LOW	76.160
CLOSE	81.744

14日	ウィーラーNZ中銀総裁が「いくらかの追加緩和を行う可能性が高い」と発言すると、早朝に一時下落。しかし、その後は切り返し、81円ちょうど目前まで値を伸ばした。
16日	NZの7-9月期消費者物価指数が前年比+0.4%と市場予想(+0.3%)を上回るとNZドル/円は一時上昇した。しかし、黒田日銀総裁が「国内の輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、企業・家計の両部門において所得から支出への前向きな循環メカニズムが働くも、緩やかな回復が続いている」「物価の基調は着実に改善」などと述べ、日銀の追加緩和期待が後退すると、円が全般的に上昇し、NZドル/円は上げ幅を縮小した。
23日	NZドル/円は前日に欧州中銀(ECB)が12月の追加緩和を示唆し、アジア株が上昇する中で82.681円まで上昇した。しかし、この水準では上値が重く、徐々に上げ幅を縮小。さらに、中国が政策金利である銀行貸し出し金利と預金金利の0.25%の引き下げと、預金準備率の0.50%引き下げを発表すると一時上昇したが、これを受けて主要国株価が上昇し、米長期金利が上昇すると、NZドル/米ドルでNZドルが売り優勢となり、NZドル/円も連れて上げ幅を縮めた。
27日	NZ9月貿易収支が-12.22億NZドルと市場予想(-8.25億NZドル)よりも弱い結果だったことから、NZドル/円は下落。その後も主要国株価の下げが重石となってじり安となった。
28日	米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明を受けて12月上げ期待が強まり、対ドルでNZドルが下落すると、NZドル/円も下落した。しかし、その後にRBNZが政策金利の据え置きを発表。一部に利下げ予想があった反動でNZドル高が一時進んだ。
29日	中国が一人っ子政策の撤廃を発表すると乳製品需要が増えるのではとの思惑からNZドル/円は上昇した。
30日	NZ10月ANZ企業活動見通しが23.7と前月(16.7)から大幅に改善した事を受けてNZドル/円は上昇。さらに、日本株が堅調に推移する中で円売りが強まると、81.803円まで値を伸ばした。

## NZD / JPY

## 日経平均

OPEN	17479.97
HIGH	19202.34
LOW	17389.57
CLOSE	19083.10

## NYダウ平均

OPEN	16278.62
HIGH	17799.96
LOW	16013.66
CLOSE	17663.54

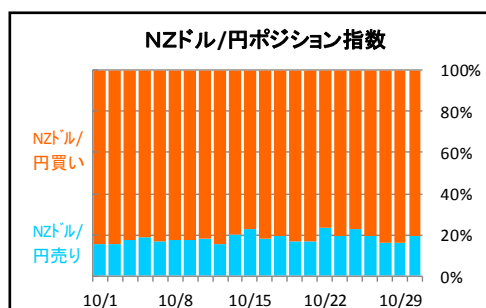
## 上海総合指数

OPEN	3156.074
HIGH	3457.517
LOW	3133.127
CLOSE	3382.561

## NZ10年債利回

OPEN	3.281%
HIGH	3.452%
LOW	3.258%
CLOSE	3.303%

## 10月のポジション動向



## 11月の注目ポイント

- ・NZフォンテラ入札(3日、17日)
- ・NZ7-9月雇用統計(3日)
- ・米10月雇用統計(6日)
- ・中国10月貿易収支(8日)
- ・中国10月小売売上高(11日)
- ・中国10月鉱工業生産(11日)

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・NZ7-9月期小売売上高指数(15日)
- ・日7-9月期GDP・一次速報(16日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・NZ10月貿易収支(25日)
- ・主要国株価、国際商品市況

## 11月の見通し

10月のNZドルは、主要国株高に加え、各種NZの指標を受けて9月まで期待の高かったRBNZの利下げ期待が後退し、かつ実際に利下げされなかった事が追い風となった。ただし、ウィーラーNZ中銀総裁は経済データ次第としながらも「若干の追加利下げの可能性が高そうだ」とコメントしており、NZドルを積極的に買う環境にはない。10月の上昇は、5月から8月にかけての大きな下落に対する調整高の意味合いが強かったように見受けられる。さらに、11月のNZでは中銀理事会は予定されていない。また、日本に関しても、10月の日銀会合および黒田日銀総裁会見で追加緩和について目新しい示唆がなかったことから、11月の会合での金融政策変更期待も低い。11月は円主体で積極的に取引をする、というムードにもなりにくそうだ。

もちろん、これまで通り各種指標やフォンテラの電子入札GDTの結果などは引き続き注目されるが、基本的には主要国株価睨みの展開が続くと見る。上昇した場合は200日移動平均線が上値抵抗に、下落した場合はまずは60日移動平均線が下値支持線となってこよう。ただし、NZの12月利下げの可能性が徐々に意識されるような事態になって60日線を割り込むようだと、9月のNZドルの頭を押さえた77円ちょうど前後辺りまで下値を切り下げる可能性がある。(石川)

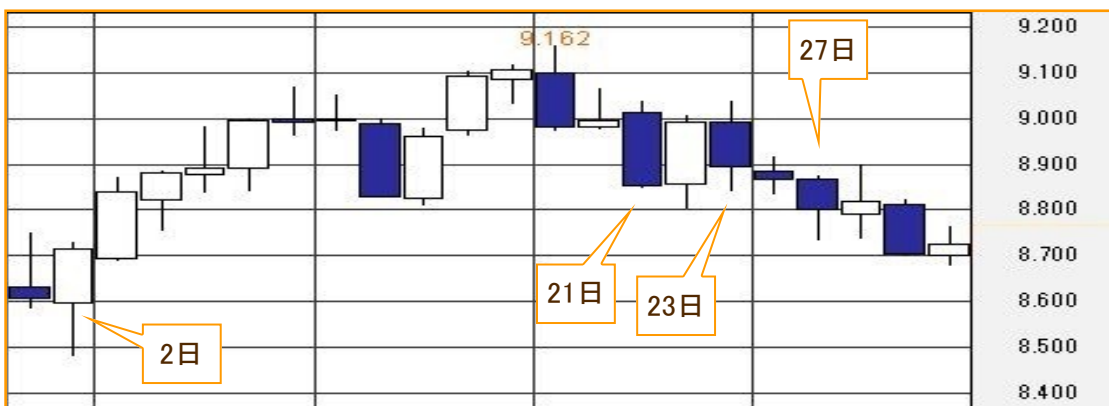
(予想レンジ: 77.000~85.000円)

ZAR/JPY

## ランド/円 10月の推移

10月のランド/円相場は8.485～9.162円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいの推移となった。

月前半は主要国株価や金、白金などの価格が堅調に推移する中で、南アランドも買い優勢となった。しかし、半ばに9月も頭を押さえられた9.10ドル台に乗せると伸び悩み。その後は中国の株安や米連邦公開市場委員会(FOMC)声明がタカ派寄りの内容であると判断された事を受けたドル/ランドでのドル高・ランド安などの影響を受けつつ、ランド/円は上げ幅を削る展開となった。



## 四本値

OPEN	8.633
HIGH	9.162
LOW	8.485
CLOSE	8.726

2日	米国で発表された9月雇用統計が市場予想よりも弱い結果になると、リスク回避ムードが急速に強まり、ランド/円は8.485円の安値を付けた。しかし、これを受けて米国の利上げ時期後退観測が強まると、NYダウ平均が切り返し、ランド/円も上昇した。
21日	上海総合株価指数が大幅に下落すると、南アランドは急落。このリスク回避の流れはNY市場でも続き、ランド/円は段階的に下値を切り下げた。なお、南ア9月消費者物価指数が前年比+4.6% (市場予想:+4.7%)、コア前年比+5.3% (同:+5.3%)との結果になったが、ランドの反応は限定的だった。
23日	中国が政策金利である銀行貸出し金利と預金金利の0.25%の引き下げと、預金準備率の0.50%引き下げを発表するとランド/円は一時上昇したが、これを受けて主要国株価が上昇し、米長期金利が上昇すると、ドル/ランドでランド安が進行。ランド/円は連れて失速した。
27日	米軍が南シナ海へ駆逐艦を派遣したと報じられ、リスク回避ムードが強まると、ランド/円は下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## 日経平均

OPEN	17479.97
HIGH	19202.34
LOW	17389.57
CLOSE	19083.10

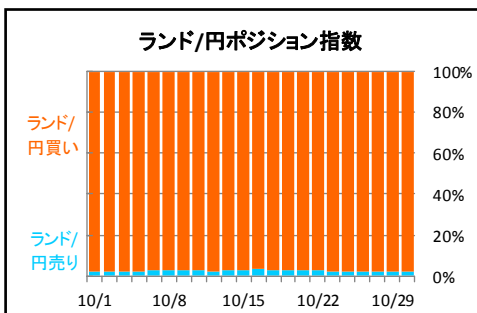
## NYダウ平均

OPEN	16278.62
HIGH	17799.96
LOW	16013.66
CLOSE	17663.54

## NY金

OPEN	1114.50
HIGH	1191.70
LOW	1103.80
CLOSE	1141.40

## 10月のポジション動向



## 11月の注目ポイント

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・中国10月財新製造業PMI(2日)
- ・米10月雇用統計(6日)
- ・中国10月貿易収支(8日)
- ・中国10月小売売上高(11日)
- ・中国10月鉱工業生産(11日)
- ・日7-9月期GDP・一次速報(16日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・南ア10月消費者物価指数(18日)
- ・SARB政策金利発表(19日)
- ・南ア7-9月期GDP(24日)
- ・南ア10月貿易収支(30日)
- ・主要国株価、国際商品価格

## 11月の見通し

ランド/円は11月も引き続き、主要国株価や国際商品価格、そしてドル/ランドの動向を眺めながら、方向感を模索する流れになるだろう。

主要国株価が堅調に推移している限りはランド/円にも堅調さが見られると考えられるが、ひとたび市場がリスクオフに転換した場合には他のクロス円と同様に反落しよう。また、米国の12月利上げが急速に意識されて米ドル高が進むと、ドル/ランド主導でランド安が進む可能性がある。10月6日、クガニャゴSARB総裁は米紙WSJのインタビューに対し、「(9月に対ドルで過去最安値を更新したランドに対して)外貨準備がどれほど豊富であろうと、市場に対して通貨安を食い止められる中銀などいない」と語り、市場介入を行わない方針を改めて示しており、ランド安が進む場合は他の新興国通貨に比べて大幅かつ急激なものになりそうだ。

ただ、南ア中銀(SARB)は11月19日に政策金利の発表を予定している。南アは金や白金などのコモディティ価格下落の悪影響などが重石となって経済が圧迫されている一方、ランド安によるインフレ懸念が強く、金融政策の運営が非常に難しくなっている。9月会合後には市場に利上げ観測も広がっていた。9月の消費者物価指数が前月と同程度に留まったが、依然としてドル/ランドが高い水準での推移を続けている以上、SARBは利上げを打ち出してくる可能性があるため、要注意だ。利上げが行われれば、瞬間的にランド高が進む可能性がある。(石川)

(予想レンジ: 8.200~9.100円)